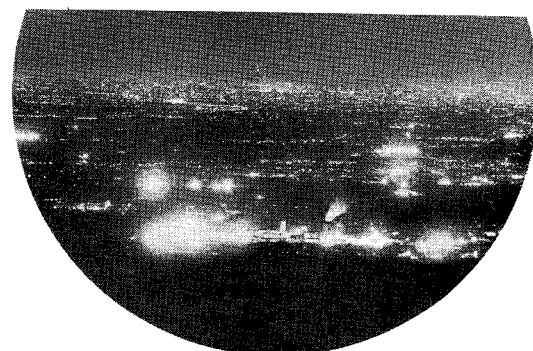


◇ 12月の天文暦 ◇

| 日 時 | 記 事 |
|-------|----------------|
| 4 22 | 月 最遠 |
| 6 0 | 水星 留 |
| 5 | 朔 |
| 7 9 | 小雪 (太陽黄経 255°) |
| 9 11 | 土星 衝 |
| 14 4 | 上弦 |
| 15 | 水星 西方最大離角 |
| 19 22 | 月 最近 |
| 20 19 | 望 |
| 22 3 | 冬至 (太陽黄経 270°) |
| 27 19 | 下弦 |

堂平観測所より東京方面をのぞむ。(上) 1967年2月,
(下) 1972年3月撮影。



言いたい放題・言いたい放題・言いたい放題

ジャコビニ狂騒曲と環境庁

十月三日環境庁の大臣室でのことである。黒木秘書官は聞く。「どちらから陳情しますか」。「では星空から。エー陳情書を一通り読み上げます。ピーナスライン美ヶ原線は標高 2,000m という日本唯一の高原台地を…」秘書官氏あわてて「そちらを先にしますか」「いや間違えました。エー回転サーチライトの即時禁止と一般光害を規制することに関する陳情でございます、これは既に大石前長官時代にお願いしたことでありますが、今回は特にジャコビニ流星雨といまして十月八日夜から九日にかけて……」長官「あ、そのことならよく聞いています」。記者団を見回して「どうか皆さん方も書いて下さいよ」と長官自ら広報役を買って出たばかりか「全国という訳にもいかないが、観測地点周辺のサーチライトは消させたい。観測地はどこですか」と下保・香西両氏からの説明を自身でメモされ、即刻係官を呼んで指示された。秘書官室に戻った香西氏「こんなにして貰って出なければ困りますね」「いやそれはその時のこと」。か

くて全国に照明規制の通達を飛ばすことと相成った。

陳情に行ったことがせめて新聞の片隅にのればの願いだだったが、これが国をあげての騒動になるとは夢知らず、星空を守るPRになれば翌朝の「スタジオ 102」に歩を運んだ。村山定男氏は例の調子で「皆様おぼえていらっしゃいますか、今日はちょうど十五年前の連の人工衛星があがった日として、その頃は東京の空も暗くて……」、役者がちがう、とてもかなわん。

その日の午後環境庁から電話あり、「文部省を通じて東京天文台長に問い合わせたところ、燈火の障害の少い所 (300 頁右中段につづく)

